

シオマネキ (1)

分類: 短尾区 方頭亜区 スナガニ科 スナガニ亜科
(十脚目 爬行亜目)

学名: *Uca arcuata*

英名: Fiddler crab

熱帯から亜熱帯にかけての mangrove 地帯即気根をつきだしたヒルギ類の繁茂したところに生息し、日本では九州有明海の干拓地帯に多い。11月から3月上旬にかけての冬期の間は巣穴にもぐり春になると活潑に餌をあさるようになる。雄の小さい方の鉗脚と雌のそれとはスプーン状になって泥砂上の珪藻やその他の有機物をすくい、口の中で食物と砂泥とにわけて捨てる。干潮時には泥底にその姿をあらわし、雄は一方が極端に大きい鉗脚を上方より下方へと運動を繰り返す、7~8月にはこの運動は最高潮に達する。この行動は雌に対する求愛行動であると解釈されている。甲は逆三角形で前縁が広い。甲及歩脚は暗青色で甲面の中央部に濃紫色の網目模様のあるものが多い。鉗脚は幼生でわ朱紅色で、老成するにつれ赤色は退化する。同属にハクセンシオマネキ(*U. lactea*)がある。有明海の「ガンヅケ」はシオマネキを生のまま石うすでつけた塩辛で「カニヅケ」である。



モーリシャス -1969-



オーストラリア -1973-



沖縄 -1969-



バルバドス -1966-
(横透し #280a)



北ベトナム -1965-



バルバドス -1965-



シオマネキ (2)



リュウキュウシオマネキ 沖縄 -1969. 2. 5-
Uca coarctata coarctata

